

# 2009年度(2010年3月期) 第1四半期 決算説明会

2009年7月30日

**セイコーエプソン株式会社**

© Copyright Seiko Epson Corporation 2008

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について

- 将来の事業化を目指していた、「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部を、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って全社の基礎研究開発へと役割を変更
- それにともない、2009年度以降のセグメント損益の開示値を変更
- 2009年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2008年度のセグメント損益もあわせて補正

2

- - 2009年度から、「その他の事業」セグメントに含まれる胎内育成事業の一部につき、変更。
  - 将来の事業化を目指し、「その他の事業」セグメントに含めていた「胎内育成事業」の一部につき、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿い、全社の基礎研究開発へと方針・役割を変更。
  - これは、各セグメントで負担すべき性質の費用のため、2009年度以降のセグメントの損益開示値を変更。
  - 2009年度の実績および予想を、前年度である2008年度と比較する際、2008年度のセグメントの損益についても同様の補正。

1) 2009年度 第1四半期決算

2) 2009年度 業績予想

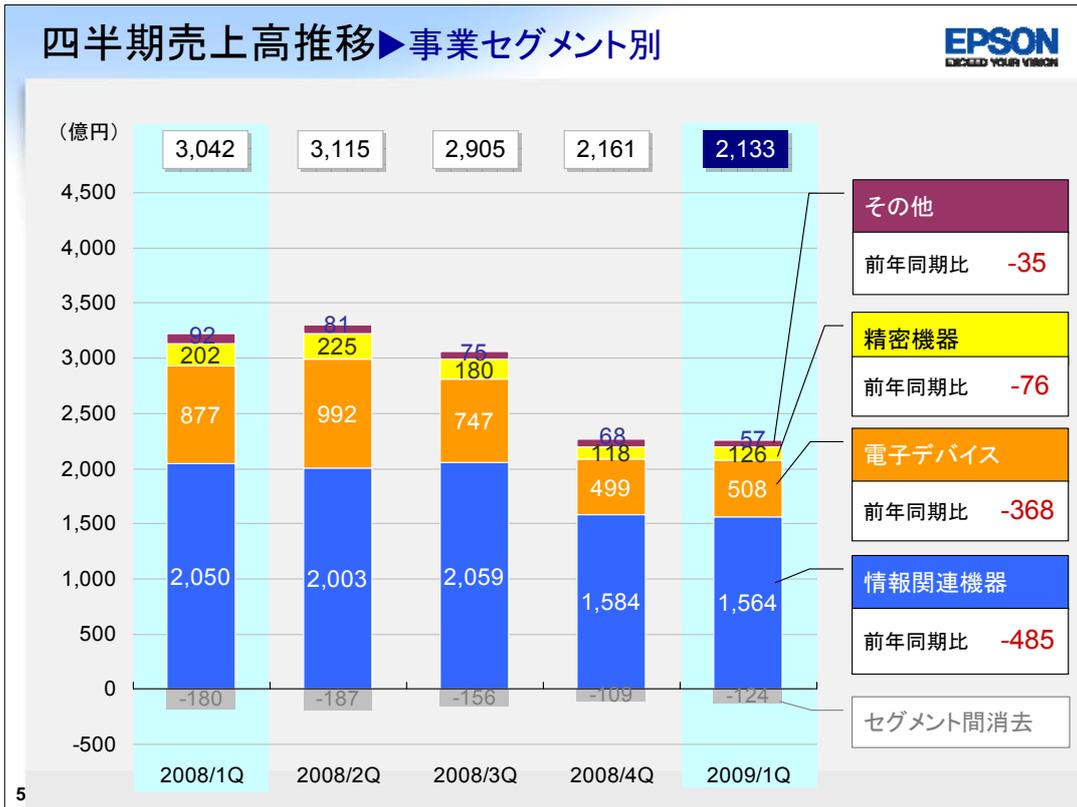
## 決算ハイライト(第1四半期決算)▶前年同期比



(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	1Q実績	%	1Q実績	%	増減額	増減率
売上高	3,042	-	2,133	-	-908	-29.9%
営業利益	223	7.4%	△124	-5.8%	-348	-
経常利益	219	7.2%	△150	-7.1%	-370	-
税引前利益	157	5.2%	△168	-7.9%	-325	-
四半期純利益	103	3.4%	△223	-10.5%	-326	-
EPS	52.46 円		△113.24 円			
換 算 レ ー ト	USD	104.55円	97.32円			
	EUR	163.42円	132.57円			

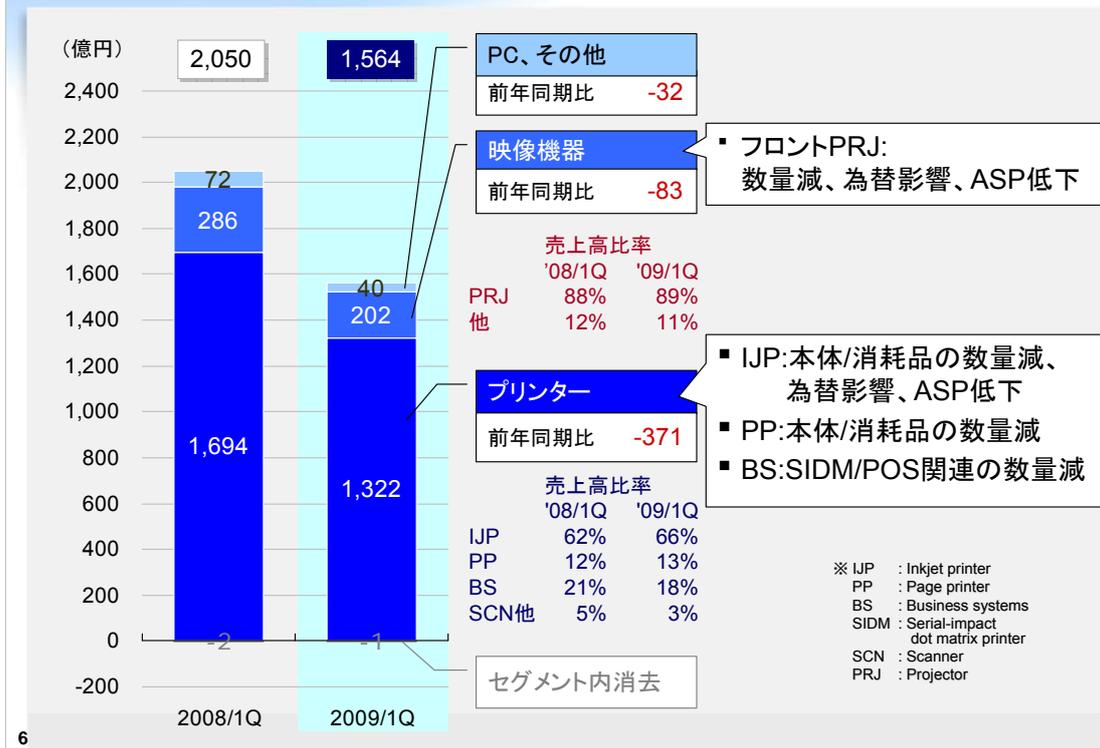
4

- ▶ 2009年度 第1四半期の実績について。
- ▶ 売上高は、前年同期比 29.9%減収の 2,133億円。  
営業利益が348億円減益の124億円の損失、経常利益が 370億円減益の150億円の損失、四半期純利益は326億円減益の223億円の損失。
- ▶ 期初の社内計画との比較について。
- ▶ 2009年度期初計画は、2008年度から続く景気後退の影響を受け、厳しい事業環境を想定。当社の多くの事業の商戦期が下期に集中することもあり、損益面では下期にかけて回復する計画。上半期、特に第1四半期は景気の底であることから、年間の中で、もっとも厳しい損益を予想していた。
- ▶ 第1四半期は、景気回復の遅れから多くの事業において販売数量は社内計画に対し未達となったが、円安による為替効果や、固定費削減により、売上高、営業利益とも計画どおり。
- ▶ 経常利益については、為替相場の変動もあり、予約をしていた為替との間で差損29億円が営業外費用で発生し、社内計画を下回った。
- ▶ 特別損失には、中・小型液晶ディスプレイ、半導体事業などで行った新規投資の一部約9億円を減損損失として計上。  
これらの事業は構造転換を進めていることから、維持・更新に必要な最低限の投資計画となっているが、現時点では、将来のキャッシュフローを見込めないことなどから、新規の機械・備品投資の一部を減損損失として計上。
- ▶ 該当する新規投資については、今後 精査・抑制を検討していく。



- 
- 事業セグメント別の四半期売上高推移について。
- 情報関連機器は、前年同期比 485億円の減収、電子デバイスは、前年同期比 368億円の減収、精密機器は、前年同期比 76億円の減収。

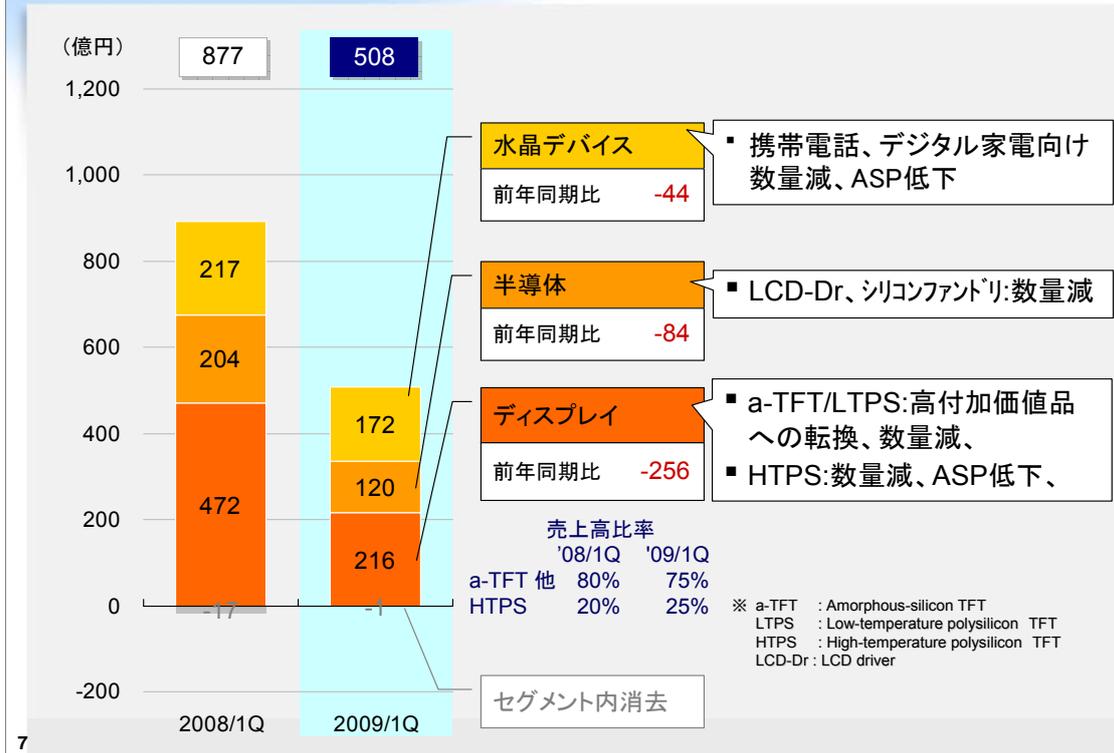
## 四半期売上高比較▶情報関連機器セグメント



### ▶ 情報関連機器事業セグメントの第1四半期売上高について。

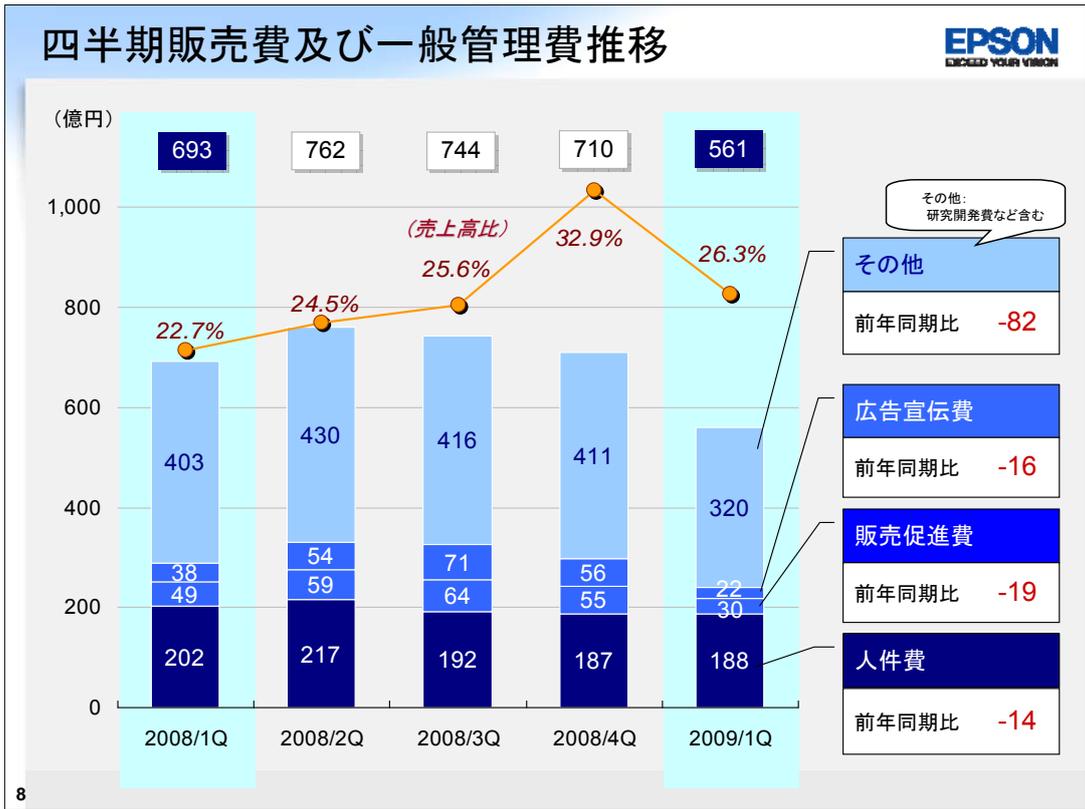
- ▶ プリンター事業は、前年同期比 371億円の減収。
  - ▶ 引き続き、ビジネス向け製品を中心に景気後退による影響を受けた。
  - ▶ インクジェットプリンターは市場回復が遅れるなか、本体、消耗品ともに数量減、円高による為替の影響、ASPの低下により減収。
  - ▶ 本体の地域別状況は全ての市場において マーケットサイズが前年割れするなか、日本は ほぼ前年並みの数量。一方、欧米、アジアで数量減。
  - ▶ ページプリンターは、入札案件獲得など 拡販への積極的な取り組みにより、本体はアジアにおいて数量を伸ばしたが、日本や欧州においては数量減となったことに加え消耗品の数量減、および為替の影響により減収。
  - ▶ ビジネスシステムは、SIDMにおける南米、欧州での数量減、POS関連製品における欧米での流通業界の投資抑制による数量減、および為替の影響により減収。
  - ▶ 映像機器は、プロジェクターの北米、欧州市場の低迷による数量の減少、および為替の影響により減収。
- 
- ### ▶ 期初の社内計画との比較について。
- ▶ インクジェットプリンターは、本体は僅かに数量は届かなかったが、消耗品の数量がほぼ計画どおりだったこと、ならびに、円安による為替の効果により、計画どおり。
  - ▶ ページプリンターは計画どおり。
  - ▶ ビジネスシステムは、SIDMの中国向け販売が比較的堅調だったが、POS関連製品が欧米の流通業界における投資抑制の影響により数量減となり、計画未達。
  - ▶ 映像機器は、市場回復の遅れによりプロジェクターの数量は未達、円安による為替の効果もあり、計画どおり。

## 四半期売上高比較▶電子デバイスセグメント



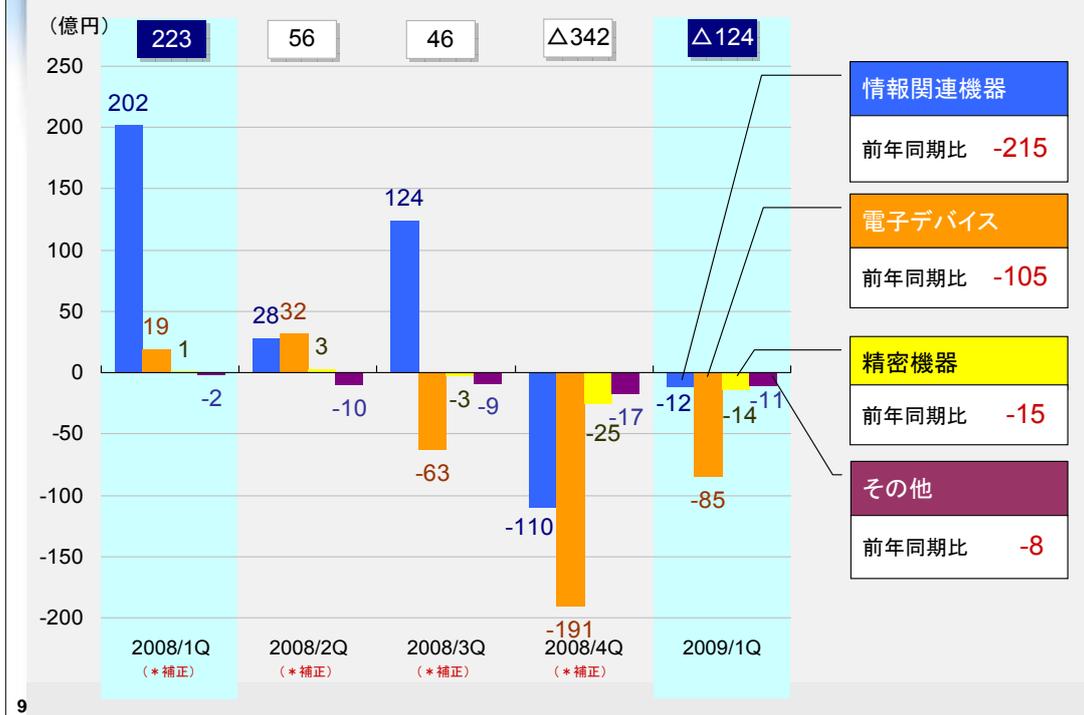
### ▶ 電子デバイス事業セグメントの前年同期比について。

- ▶ ディスプレイ事業は、前年同期比 256億円の減収。
- ▶ モバイル用の中・小型液晶ディスプレイについては、構造改革により、カラーSTNとMD-TFDが終結となったことに加え、携帯電話向けを中心に好調に推移した昨年度の市場環境と比較すると2009年度の第1四半期は、景気後退による影響を強く受けた。
- ▶ アモルファスTFTと LTPSにおいては、継続して取り組んできた価格維持などの施策効果、スマートフォン向けの数量増加などがあったが、携帯電話向け、デジタルカメラ向けの数量の減少により減収。
- ▶ プロジェクター向けのHTPSは、数量の減少と、ASPの低下により、減収。
- ▶ 社内計画との比較ではモバイル用の中・小型液晶ディスプレイが数量増となったが、モデルミックスによりASPの低下と、プロジェクター向けHTPSの数量減により、未達。
- ▶ 水晶デバイスは、市場拡大が見込まれるセンシングデバイスにおいて数量は増加したが、デジタル家電などの市場が前年度水準まで回復していないことによるATなどの数量減、およびモデルミックスなどによるASPの低下、円高の影響により減収。
- ▶ 社内計画との比較では、モデルミックスによるASPの低下があったが数量増および為替の効果により、計画並。
- ▶ 半導体は、前年同期に比べ、携帯電話向けLCDドライバーやシリコンファクトリーなどの数量減少があり、減収。
- ▶ 社内計画との比較では、携帯電話向けを中心に、LCDコントローラーやシリコンファクトリーの増加により上回った。

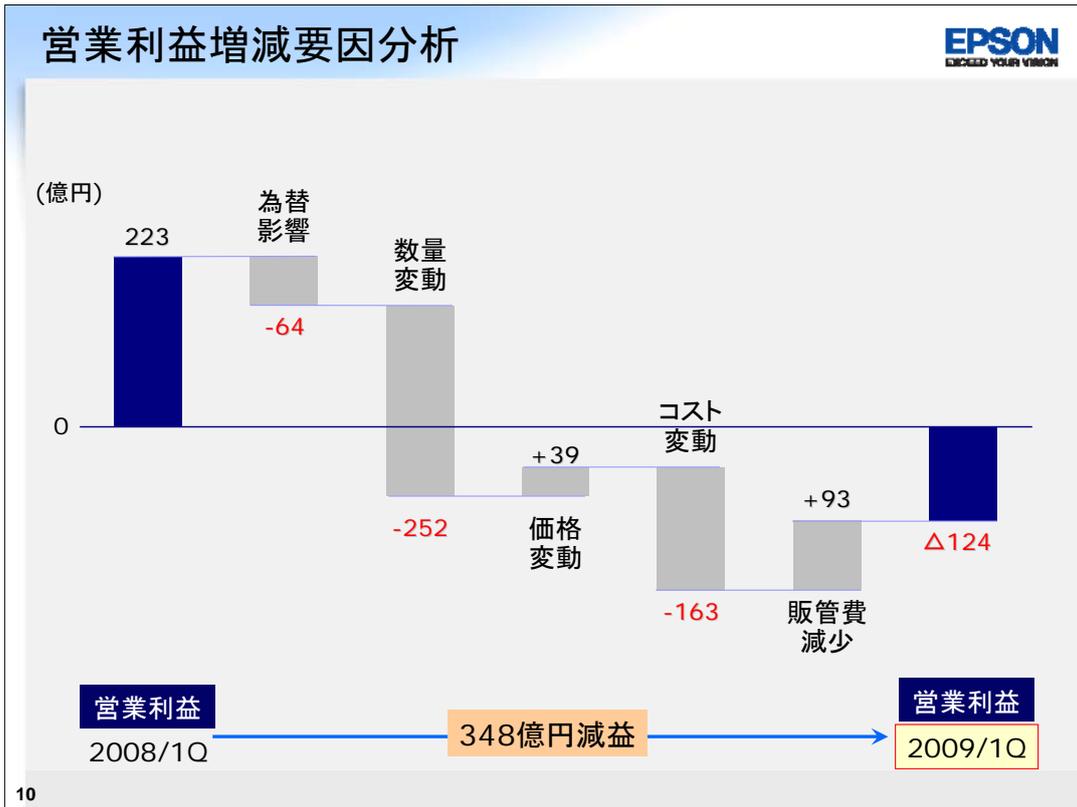


- 
- 販売費及び一般管理費の四半期推移について。
- 前年同期と比較し、研究開発費や、販売促進費、広告宣伝費を中心に、費用の削減を進め、131億円の減少。

## 四半期営業利益推移▶事業セグメント別



- ▶ 事業セグメント別の営業利益推移について。
- ▶ 情報関連機器は、前年同期比 215億円減益の12億円の営業損失。
- ▶ 費用全般において効率的な執行による削減を進めたが、円高による為替影響、ビジネス向けを中心としたプリンター、およびプロジェクターの本体とインクジェットプリンターの消耗品が減収となり、減益。
- ▶ 電子デバイスは 前年同期比105億円減益の85億円の営業損失。
- ▶ 前年度に事業構造改善費用と減損損失を計上したことともなう減価償却費の減少、拠点の統合効果による固定費削減などを進めたが、為替影響や減収により、減益。
- ▶ 期初の社内計画との比較について。
- ▶ 情報関連機器セグメント、および電子デバイスセグメントは、ほぼ計画どおりの利益水準。
- ▶ 情報関連機器の社内計画との比較について。
- ▶ インクジェットプリンターは、市場回復の遅れの影響を受け、採算性の高いビジネス向けの売上高が下回った影響を受けたが、円安による為替の効果や、消耗品の売上高が計画を上回り、計画どおり。
- ▶ ビジネスシステムは、POS関連製品の売上高が計画を下回り、利益は未達。
- ▶ 映像機器は、ほぼ計画どおり。
- ▶ 電子デバイスセグメントの社内計画との比較について。
- ▶ ディスプレイ事業は、売上高は計画を下回ったが、中小型液晶ディスプレイ事業における拠点統合効果によるコスト削減効果などにより計画どおり。
- ▶ 水晶デバイス事業は、計画どおりの売上高となったが、モデルミックスの影響により、計画を下回った。
- ▶ 半導体事業は、売上高が上回ったことに加え、コスト削減により計画を上回った。



- 
- 営業利益の前年同期比での減益額348億円の要因を分解。
- 2008年度 第1四半期の営業利益223億円に対し、価格変動や販管費減少の増益要因があったが、数量変動やコスト変動の減益要因があり、当四半期は、124億円の損失。

## 貸借対照表主要項目推移



11

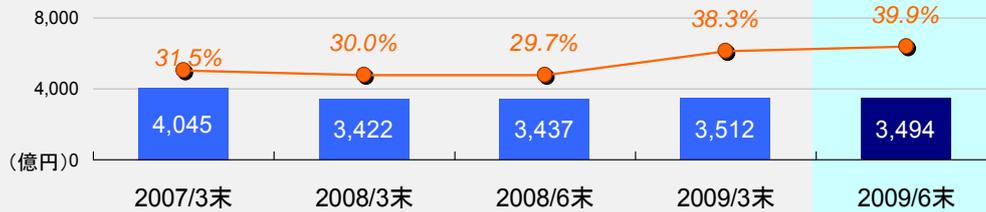


- 貸借対照表の主要科目について。
- 総資産は、売上高減少にともなう たな卸資産の減少や 現金および預金、ならびに有価証券などの流動資産の減少により409億円減少。

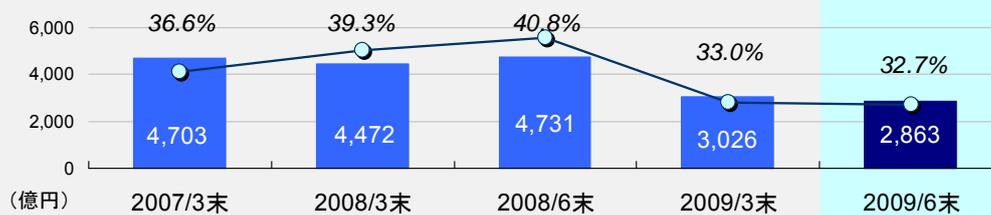
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む  
\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

12

- 
- 有利子負債は、前期末に比べ、18億円減少。  
総資産の有利子負債依存度は39.9%。  
ネット有利子負債は、866億円。
- 自己資本は162億円減少し、自己資本比率は32.7%。

1) 2009年度 第1四半期決算

2) 2009年度 業績予想

13

- - 2009年度の業績予想について。

## 決算ハイライト(通期)▶前期比

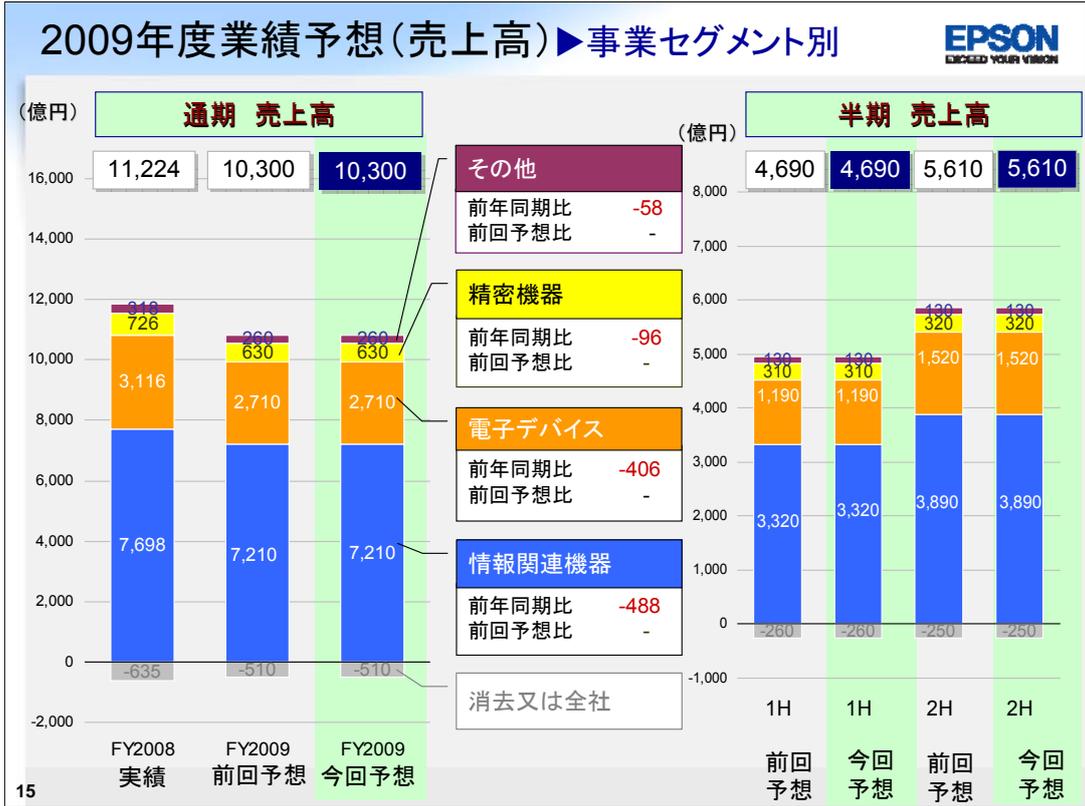


(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	4/30予想	%	今回予想	%	前期 実績比	4/30 予想比
売上高	11,224	-	10,300	-	10,300	-	-924 -8.2%	-
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	30	0.3%	+45 -	-
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	-53 -	-
税引前利益	△895	-8.0%	△20	-0.2%	△20	-0.2%	+875 -	-
当期純利益	△1,113	-9.9%	△60	-0.6%	△60	-0.6%	+1,053 -	-
EPS	△566.92 円		△30.56 円		* △30.12 円			
換算 レート	USD	100.53 円	90.00 円		96.00 円			
	EUR	143.48 円	115.00 円		127.00 円			

\* 2009年6月1日付で、当社を完全親会社とし、エプソン・システム・サービス株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を実施。  
これにともない、発行済株式総数が3,452,797株、資本準備金が4,820百万円増加。

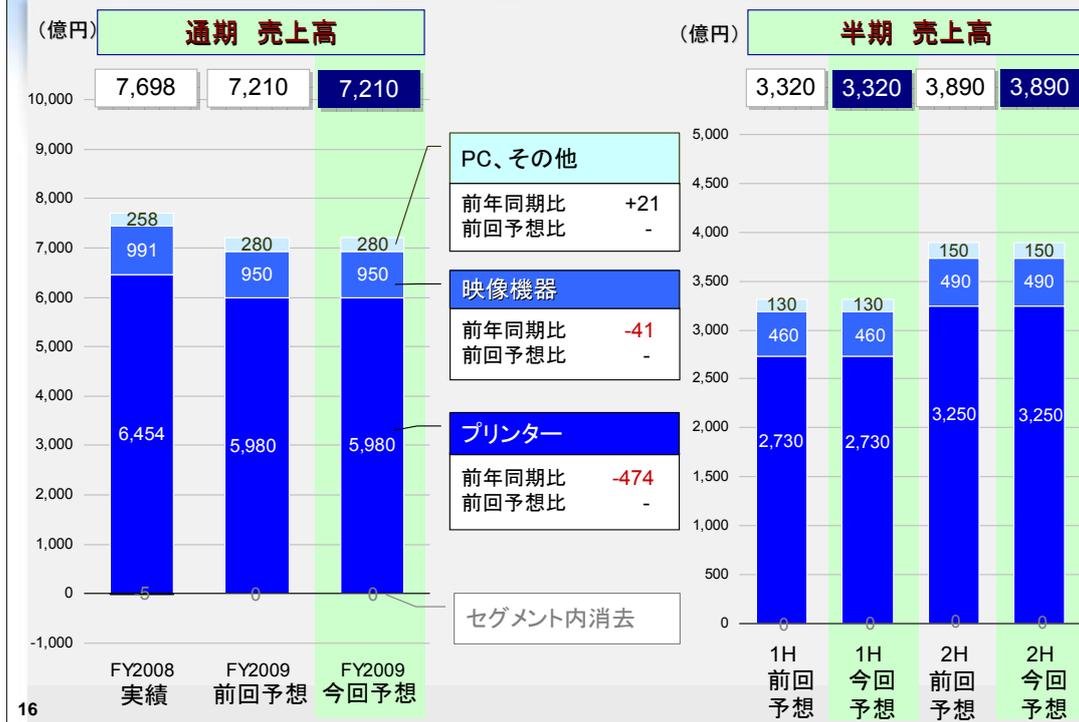
14

- ▶ 業績予想の為替前提を、第2四半期以降USD 95円、ユーロ 125円で見直し。第1四半期の実績を加味し、通期の為替はUSD 96円、ユーロ 127円に見直し。
- ▶ 前回予想に比べると為替によるプラス影響があるが、引き続きビジネス向けを中心に市場環境の回復に遅れや、下期の経済環境も不透明なことから、通期および半期の業績予想は、前回予想を据え置き。



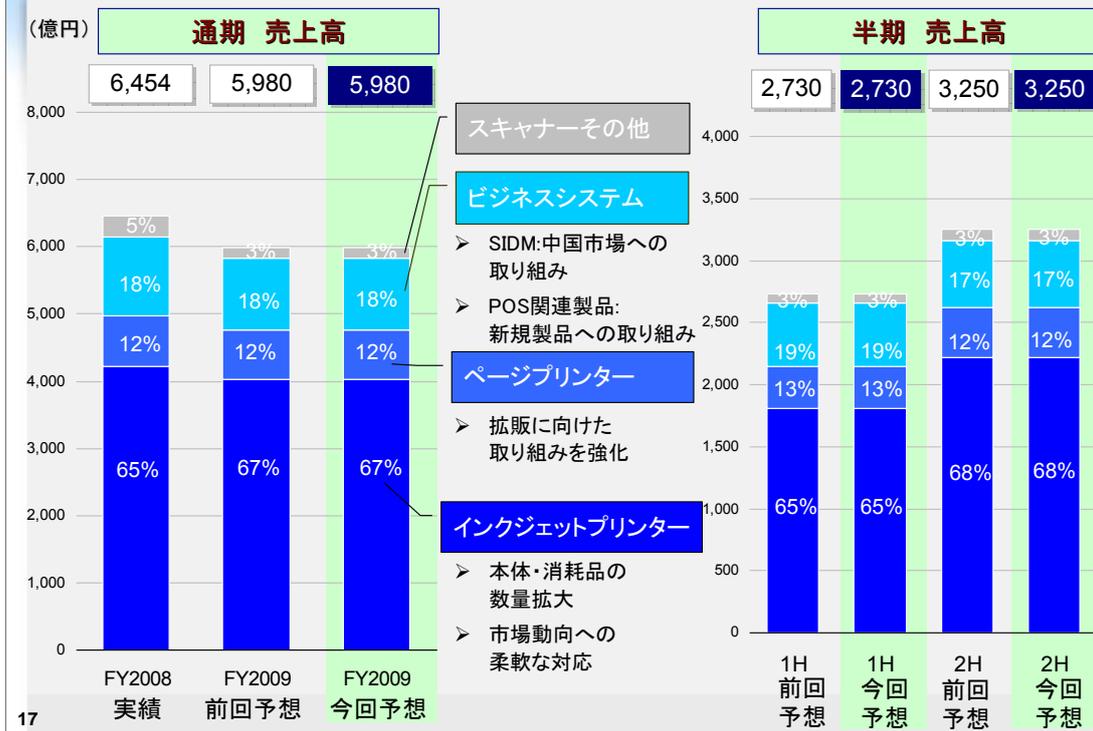
- 
- 事業セグメント別の、売上高予想と上期/下期別の内訳について。
- セグメント別、半期別ともに、予想を据え置き。

# 事業別売上高予想▶情報関連機器セグメント

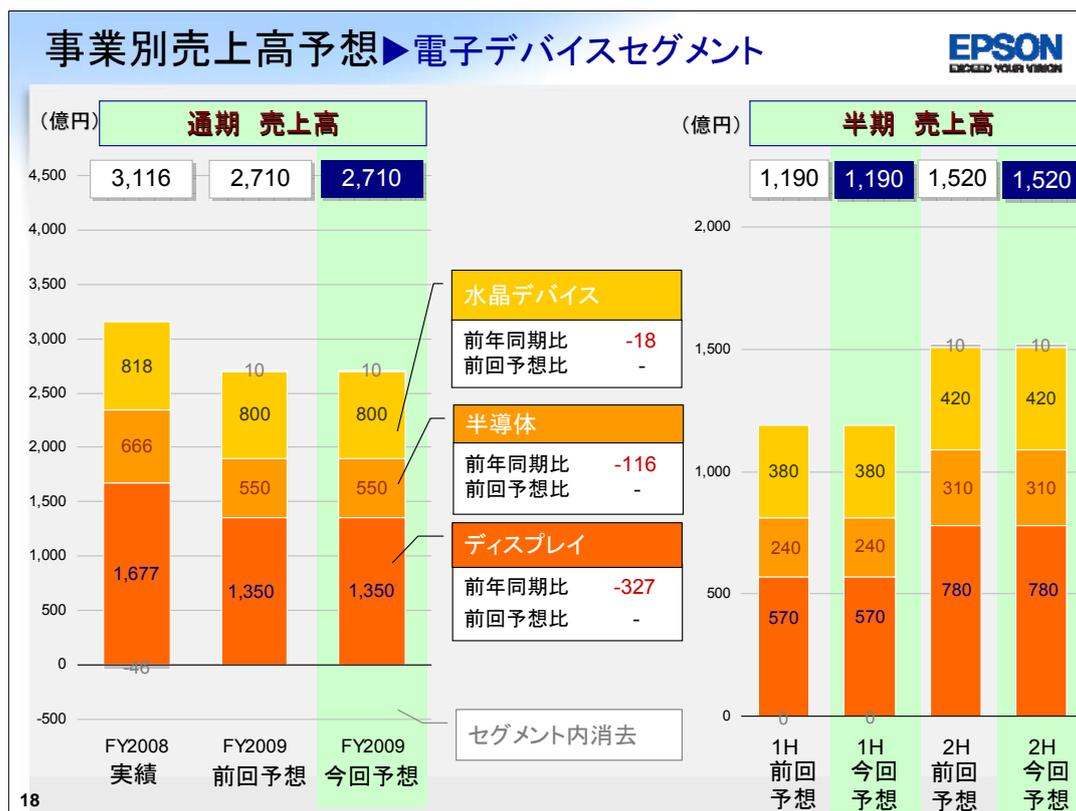


- 
- 情報関連機器セグメントの事業部門別売上高の内訳について。
- 予想を据え置き。

## 事業別売上高予想▶プリンター事業

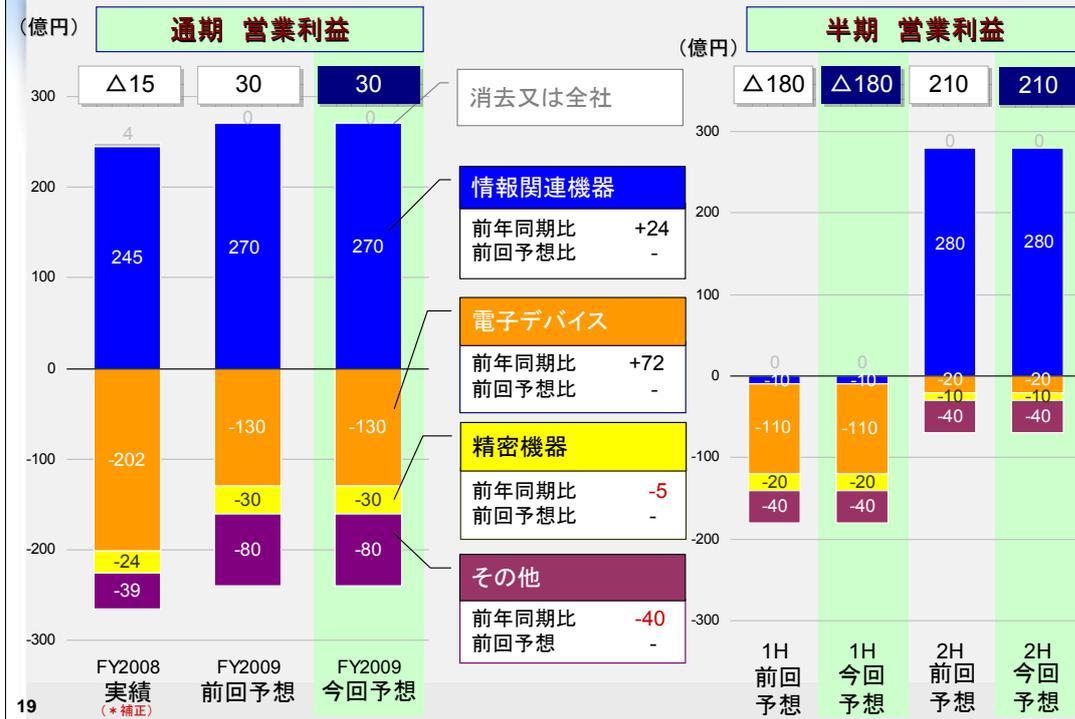


- ▶ プリンター事業は、4月30日説明内容と基本戦略に変更なし。
- ▶ 引き続き競争力の高い製品の投入と、徹底したコスト削減に取り組む。
- ▶ インクジェットプリンター事業において、成長市場である、エマージングや、成長領域である商業・産業分野への取り組みを強化、中長期的には売上と利益を拡大・創出できる体制を整えていく。



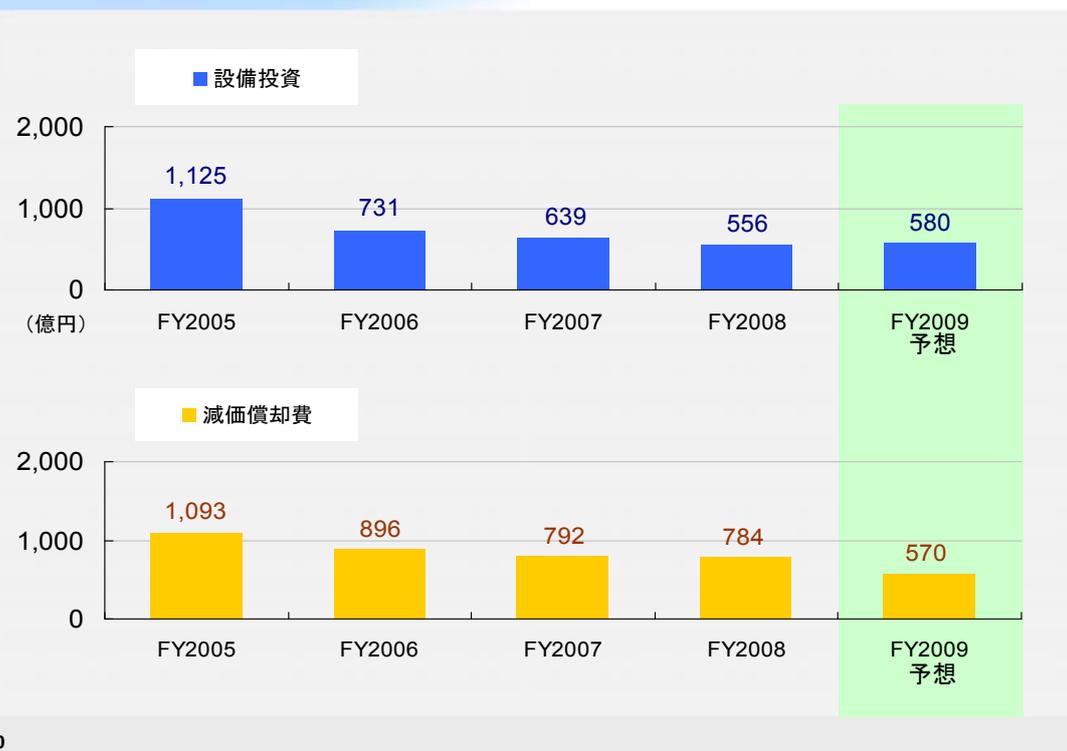
- 電子デバイスセグメントの事業部門別売上高の内訳について。  
方針に変更なし。
- 中・小型液晶ディスプレイ事業について。  
6月30日に当社とソニー株式会社の間でエプソンイメージングデバイスが推進する  
中小型TFT液晶ディスプレイ事業に関する事業資産の一部を、ソニー株式会社および  
ソニーモバイルディスプレイ株式会社へ譲渡することなどで合意、正式に契約を締結。
- 現在、スケジュールにのっとり、オペレーション体制の移行準備中。
- 連結業績への見通しは軽微であり、予想は据え置き。

# 2009年度業績予想(営業利益) ▶ 事業セグメント別



- ▶ 事業セグメント別の営業利益予想と、上期/下期の内訳について。
- ▶ セグメント別、半期別ともに、予想を据え置き。

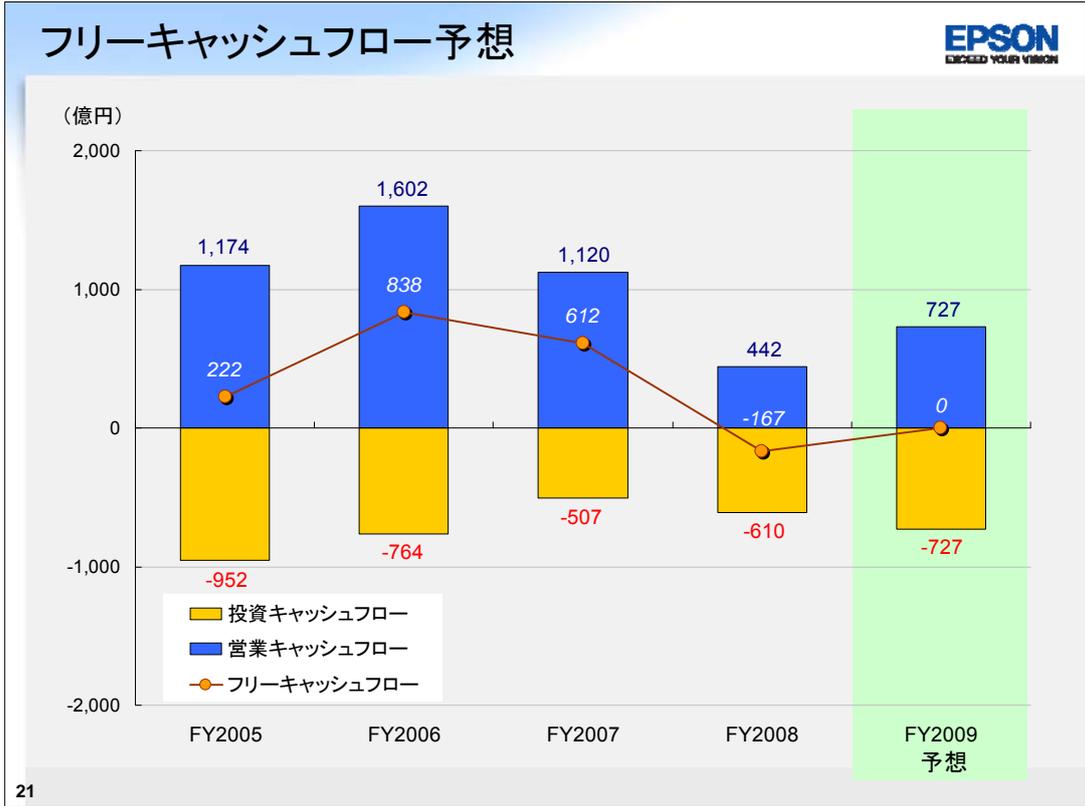
## 設備投資・減価償却費予想



20

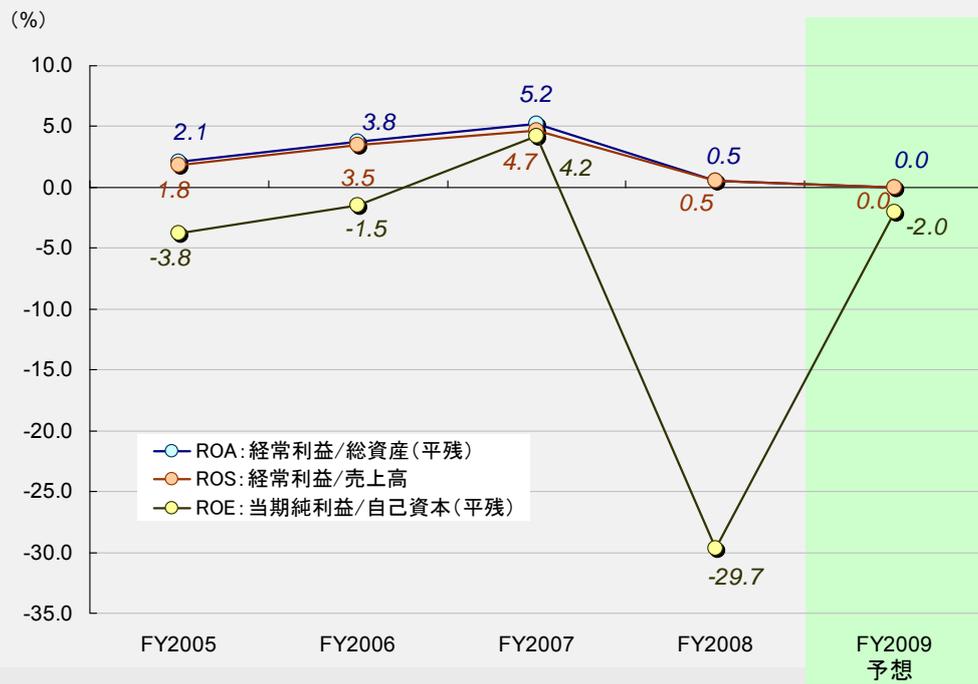


- 設備投資と減価償却費の予想は、変更なし。



- 
- キャッシュフローの予想についても、変更なし。

## 主な経営指標の推移



22

- - 主な経営指標は、期初の予想から変更なし。
  - 以上。

